パートナー情報誌

香　澄

第 19 号
発行日：2011 年２月１日
発行人：パートナー情報誌「香澄」編集部会
編集員：浅野明宏，有吉潔，稲葉寛，尾形孝彦，
栗原知彦，中村利夫，平江俊之，安川敏行，
深澤幸義，高橋慎，松本忠士，中根尚美

平成 22 年度霞ヶ浦水質浄化ポスター・壁新聞コンクール表彰式

平成 22 年 12 月４日(土)に，センター多目的ホールにて霞ヶ浦水質浄化ポスター･壁新聞コンクールの表彰式を開催しました。このコンクールは，霞ヶ浦に対する子ども達の関心を高めることを目的として，霞ヶ浦水質浄化強調月間を中心に毎年募集を行っています。

今年度の応募作品数は，ポスター1,561 作品，壁新聞 18 作品。表彰式では，審査会で選ばれた 73 作品の入賞者に表彰状が授与されました。入賞者とそのご家族約 250 名が出席し，天気にも恵まれて晴れやかな表彰式となりました。

当日は，パートナー３名の方にもお手伝いいただき，ありがとうございました。子ども達の力作は，２月 19 日(土)の環境学習フェスタでもセンター内に展示する予定ですので，是非ご覧になってみてください。　(センター：中根)

《ポスター県知事賞作品》

小学校低学年部門

石岡市立杉並小学校３年
荒木　なるみさん

小学校高学年部門

つくば市立九重小学校５年
加藤　朱莉さん

中学生部門

結城市立結城中学校１年
伊藤　真帆さん

ウォーキング戸崎コースのイベント開催

イベント・記録グループ主催による第１回『センター周辺のウォーキング戸崎コース』イベントが 11 月６日（土）開催され，当日は好天にも恵まれ総勢 20 名が参加されました。

このコースは八坂神社→戸崎城本丸跡→八幡神社→松学寺（4.5km/1.5 時間）を廻るという，特に歴史を感じるコースです。戸崎町は戸崎城を中心に栄えていました。

しかし，関ケ原の戦いが終わると，同じくして廃城となるという戦国時代がここでも見られていたという歴史があります。

いざ出発したけれど見学に気を取られすぎて，途中は早足で歩く事もありましたが，何とか所要時間で廻る事ができました。参加者からは比較的平らで歩きやすく又距離的にも気軽にウォーキング出来るので，良いコースですという話がありました。

注意：このコースは試行中で利用者はパートナー，職員関係者を対象としています。ウォーキングを希望する方はセンター環境活動推進課へ申請してコース案内資料を受け取って下さい)。(栗原)

センター前（出発）

松学寺にて記念撮影

八幡神社入口

絵本「石になった魚」から学ぶ

絵本「石になった魚」は，大阪市内のＮＰＯ法人 nature works の「人を自然に近づける川いい会」が作成したもので，イソップ物語のような題名に惹かれ，センターの読み聞かせにどうかと思い頒布していただきました。

内容は，前年の秋，淀川の支川下流で生まれ，淀川を下り大阪湾で育ったアユ兄弟が，再び生まれ故郷を目指して川のぼりをし，その途中で出会う様々な出会いや経験をアユ（魚）の目線で描いた物語です。

それは，海域から汽水域までしか行き来できないスズキ，海域から淡水域まで行き来できるボラ，泳ぎは遅いが少しぐらいの段差はよじ登っていけるヨシノボリ，それにドブガイやイシガイなど霞ケ浦でもおなじみの魚貝達との出会いと落差工にたたきつけられコンクリート護岸に身体をぶつけ身をすり減らしながらの川のぼりの旅です。

アユ兄弟は，生まれ故郷の川に到達寸前で，アユからは100階建てのビルに見える垂直に伸びた大きな絶壁に出会います。多くの魚達が絶壁を乗り越えることが出来ず，ここで命を落としています。アユ兄弟も同じ運命をたどるところでしたが，（ここからはメルヘンの世界）多くの死んだ魚の魂が石になり，大小重なり合って絶壁の前に斜面（魚道）をつくり，アユ兄弟や川の生き物が行き来できるようにしてくれるというものです。

この絵本全体に流れるストーリー「ひとは，これまで治水・利水のために様々な工事を行ってきました。それは人の生活に役立ち，安全・安心を保ってきました。でも，生きものにとっては大変迷惑なモノだった」，を時にはホロリとさせられ，時にはメルヘンの世界に誘われながら小学校中，高学年以上から大人まで自然と頭に入るので，大阪湾を霞ケ浦に，淀川を桜川や恋瀬川に見立ててセンター読み聞かせに活用したいと思っていますが，未だに実現していません。

魚の目線で川の中の様子や川の構造が描かれ，子供達の環境学習にも役立つので読み聞かせに工夫をして，早い機会に実現しようと思っています。

（浅野）

我が家の省エネ対策

（単位：円）

	H21 年	H22 年
電　　気	13,000	8,000
ガ　　ス	4,000	0
灯　　油	3,000	1,500
上　　水	4,000	3,000
下　　水	3,000	2,500
合　　計	27,000	15,000

右の表をご覧いただきたい。我が家のエネルギー消費金額（月額概算）を年度で比較したものです。

H21 年比で月約 12,000 円の減少ですから，H22 年総額で 144,000 円減ということになります。

その要因として３つ上げられます。ひとつはオール電化他のリフォームで給湯設備を一新したこと（投資額約 100 万円）。これでガス代は 0 となり，ボイラーの撤去で灯油代は半減しました。増えるはずの電気代が下っているのは，テレビの液晶化と，我が家の生活リズム（深夜時間帯の消費量が多い）のせいと考えられます。

２つ目は居候していた次男が，転職を機に独立したことです。家族の減少はあらゆるエネルギー消費の減少に直接影響しますので，“貢献度”は高くなります。

３つ目は，意味の無いエネルギー消費の削減とリユースです。①使わない電気器具のコンセントはできるだけ外す。②電気ポットや石油ストーブで沸かしたお湯はポットで貯留し，炊飯・煮炊き時に再利用する。③洗濯は 2 日に一度。④湯たんぽのお湯は，愛犬の体を拭くときに使う，などです。

大分ケチケチの生活をしているように思われるかも知れませんが，老夫婦 2 人だけの生活。分相応でつつましさの中にも余裕を持った日常を送っているつもりです。

（稲葉）

平成 22 年 10 月 植物ｸﾞﾙｰﾌﾟ「湖岸植物 定点観察」ﾊﾟｰﾄﾅｰ活動の抄録

（文責：植物Ｇリーダー　有吉）

《A・B 区 観察の概況》　観察日：2010-10-27(水)

長く酷暑の続いた今年の夏も，秋の気配とともに急に冷え込み，ｶﾗｽｳﾘやﾉｲﾊﾞﾗ，ｲｼﾐｶﾜ，ﾍｸｿｶｽﾞﾗなど湖畔の植物の実が綺麗に色づき，ｻｸﾗﾀﾃﾞやﾖｼ，ｵｷﾞ，ｾｲﾀｶｱﾜﾀﾞﾁｿｳなどの花が湖畔を彩っている。

カラスウリ（ウリ科）つる性多年草
夏，夜間性の白い花を短時間咲かせる。
秋，実は熟すと赤くなる。

キンエノコロ（イネ科）１年草
小穂の毛が黄金色で，穂を太陽に向けると“後光”が差す。

ヨシ（イネ科），**オギ**（イネ科）
セイタカアワダチソウ（キク科）
湖畔の秋，植物たちの合唱が・・・。

《E・F 区 観察の概況》　観察日：2010-10-27(水)

10 月は夏日から冬日まで気候が激しく移り変わるなか秋の湖岸を歩くと，植物たちは実りの秋にいそしみ，冬を迎える準備におおわらわです。そのなかでタデ科の植物やコマツヨイグサの花が彩りを添える。

アオツヅラフジ（ツヅラフジ科）
この蔓で編んだ籠をつづらと呼ぶ。

マメアサガオ（ヒルガオ科）一年草
花は小さいが実はアサガオと同大。

アレチウリ（ウリ科）猛烈な繁殖力で悪名高い北米原産の特定外来生物。

《G・H 区 観察の概況》　観察日：2010-10-27(水)

昨年の同時期に，見事な群生が見られたサクラタデの定点観察地点には１～５本しかなく，ほぼ壊滅状態となっている。しかし場所を変えて他の地点で見事な群生が見られた。

シロバナサクラタデ（タデ科）多年草
７月に咲き始めたがまだ花がある

サクラタデ（タデ科）多年草
お花畑の様な見事な群落。

セイタカアワダチソウ（キク科）
黄色一面の群生。北米原産の多年草。

平成 22 年 11 月 植物ｸﾞﾙｰﾌﾟ「湖岸植物 定点観察」ﾊﾟｰﾄﾅｰ活動の抄録

（文責：植物Ｇリーダー　有吉）

《A・B 区 観察の概況》　観察日：2010-11-24(水)

立冬が過ぎて，夏から初秋には他の植物の上に覆い被さっていたイシミカワやクズ，カナムグラ，ヘクソカズラ等が枯れて影を潜め，ヨシやオギ，ガマなどの穂が風にたなびいて晩秋を感じさせる。

ヒロハホウキギク（キク科）１年草
秋に咲く数少ない草花の一つ。

ガマ（ガマ科）多年草。熟した雌花の種子が綿毛を付け離れて飛んでいく。

ゴキヅル（ウリ科）つる性１年草
実が熟すと二つに割れて蓋が取れたように見える。

《E・F 区 観察の概況》　観察日：2010-11-24(水)

晩秋の霞ケ浦湖岸では植物たちは冬支度を始めた。種の散布の支度をする植物，葉を色づかせ落葉の準備をして冬芽を充実させる植物など，色々な表情を見せています。

ガガイモ（ガガイモ科）つる性１年草
実が割れ綿毛を付けた種が風で飛ぶ。

ビナンカズラ（マツブサ科）常緑木本
今年は実が少なく，赤い花托が目立つ。

アカメガシワ（トウダイグサ科）
落葉高木，春の新芽は赤色。やがて緑色に，秋には黄葉が野山を彩る。

《G・H 区 観察の概況》　観察日：2010-11-24(水)

穏やかな秋晴れの日，湖岸の植物は殆ど枯れた状態であったが，晩秋に咲くコマツヨイグサが湖畔を彩っていた。またこの時期に「生け花」の材料として利用される**ノイバラ**は実が赤く熟し見事だった。

エノキ（ニレ科）落葉高木
紅(黄)葉が秋の青空に映える。

コマツヨイグサ（アカバナ科）２年草
花は４月～11 月まで長期間咲く。

ノイバラ（バラ科）落葉低木
可憐な赤い実が生け花に好まれる。

女体山山頂の筑波山神社初詣

４年ぶりになるだろうか。母の旅立ちで中断していた筑波山神社への初詣を再び始めた。正月にはきまって，つつじヶ丘の駐車場から女体山の山頂にある筑波山神社の本殿（祭神：筑波女大神としてイザナミノミコト）まで登り，そこで旧年中の破魔矢を納めて新しい破魔矢を持ち帰ってくるのが我が家の慣例行事になっている。

最初に登ったきっかけは，信仰心の深さというより，暮れから正月にかけての暴飲暴食による肥満防止という軽い気持ちであった。１回だけ雪の凍結で途中下山したが，いつの間にか重ねるうちに十数回を数えるようになった。

今年は久しぶりの山登りで，体力の衰えにちょっと不安もあり，又，最近，筑波山でのトラブルが多いということなので，急がずにゆっくりと周囲の景色を楽しみながら頂上を目指すことにした。おたつ石コースの最初は単調な登りで大変きついが，弁慶茶屋跡からは，見るべき奇岩や巨石も多く，案内板も整備されていて，今までの疲れもどこかへ吹き飛んでしまった。「大仏石」まで来ると女体山の山頂に近い。最後の滑りやすいハンレイ岩の岩場を登って頂上に到着。関東平野を一望し，２人で１年の健康を祈願した。

いい汗をかき，人々の出会いにぬくもりを感じ，すがすがしい心に満ち満ちた１日であった。我が家の神棚に久しぶりの新しい破魔矢が入り，改めて今年１年のスタートをきることができた。　（平江）

年賀状

虚礼だと言われながらも続いている年賀状。

確かに大多数は「賀状が年に一度の便り」ではあるが古希を過ぎた身にとっては相手も還暦から傘寿の人がほとんどで，お互いに生きていることや近況の確認には役立っている。

お屠蘇を片手に，あいつもとうとう“爺さま”かと孫を相手の奮闘ぶりを想像するのも悪くはない。

賀状ではないが，年末に喪中の知らせが年を追って多くなっている。親・兄弟の場合はそれなりの歳だから仕方がないと思うが，昔の仲間だった人の子供から親の死去の知らせには寂しさが募る。

母の遺せし木目込みのほほえみし顔現身の如く

賀状では体力の衰えを嘆き，

立つのにも掛け声必要どこいしょ

また，病気や孫の話題が増えてくるのも年のせいでしょうか。

病名と孫の自慢の同窓会

最近は医学の進歩も著しく簡単に手術ができるので病気も吹き飛ばしてまだまだがんばるぞと意気込む人も多い。

しろそこひ老いの手術の年の暮れ景色万物清く美し

さらには，喜寿を迎えてもまだまだ新しいことにチャレンジ出来るぞと，クラシックギターを始められると大丈夫かなと心配もする。

親の歳七つも越して福寿草ギターと決めた初のお稽古

私の母も今年で百歳を迎えるが，こうなると平均寿命が延びているとは言え，親の歳を越えるのは大変です。

少しでも近づけるように元気を保つため今年もセンターに通い，小学生たちの若い元気も貰い，頭と体を鍛えましょう。

（安川）

ご近所探訪　（６）　ーー旧水戸街道松並木と一里塚

最近，観光ボランティアガイドとして案内していると，「旧水戸街道を歩いて体験」しているという中高年の夫婦や若い女性のグループなどによく出会う。その為のツアーも多い。「歴女」の出現を待つまでもなく，「懐古ムードに浸りながら見えぬ未来に飢え続けるという2010年のトレンド分析」（DIAMOND online）もあるそうだが，今回は土浦を貫通する水戸街道の一番いいとこどりを体験する。

まずは水戸街道の”うんちく”をひとくさり。

水戸街道は関が原の戦いで天下をとった徳川幕府が奥州の諸大名を抑える為に，五街道に次ぐ重要な道路として水戸街道を整備し，道中奉行の管理下においた。水戸路または水戸道中とも呼ばれ，土浦城北門から北を水戸道，南門から南を江戸道とも称した。江戸日本橋を起点に土浦宿までは十八里半（約70km），さらに水戸まで十二里の総延長三十里の街道。水戸以北は，磐城街道，陸奥相馬街道と結んで奥州へと通じ，後世の陸前浜街道となる。街道の道幅は三間（3.6m）。旅人を暑さや寒さから保護するために，松（クロマツ）を植えて松並木とした。また一里ごとに，街道の両側に塚を築いて榎を植え，一里塚として，歩く目安や運賃算定の基準とした。

土浦市西若松地区に残る松並木

板谷の一里塚

この松並木と一里塚がそろって見事に残っているのが，水戸街道でも土浦市東若松町・板谷町地区（市指定史跡）しかなく，多くが失われている中で貴重な史跡である。

土浦周辺の水戸街道は，国道旧６号とつかず離れず残っているが，松並木は旧６号線を下って土浦一高の先，釣り具の上州屋付近を右方向に進んだ辺りからの旧道に現存する。東海道や中山道の松並木には比ぶべくもないが，再び国道に交差する約1.5kmの両側に連続した土塁があり，約130本程の松が並んでいる。若い松もあるが，往時の街道筋を偲ばせる。中程の板谷地区には，板谷の一里塚が街道の両側の小山の上にある。十分に絵になる風情で，ぜひご体験あれ。ただしこの道路は，両サイドに土浦厚生病院や有名宗教団体の教会があり，また東若松町側の入り口に日立電線の工場があり，車の往来には要注意！ここを過ぎると今も本陣が残る中貫宿に入る。　（細谷）

第53回霞ケ浦入門講座　現地講座（10月21日）

常陸川水門魚道―生物多様性と霞ケ浦の水門管理

常陸川水門は利根川河口から18ｋｍ地点に，昭和38年完成しました。洪水時の利根川からの逆流防止と渇水時の塩水遡上防止が建設目的です。その後霞ケ浦開発事業の完成で平成８年以降，都市用水，農業用水確保のため水位管理が行われています。

平成19年には魚類が常陸川水門の上下流を行き来できるよう魚道の整備が開始され，この度完成しました。ウナギやアユ，シラウオなどの遡上効果が期待されています。

今回の入門講座では常陸川水門の管理を実施している霞ヶ浦河川事務所波崎出張所を訪問し，水門操作の現況についてうかがうとともに，完成した常陸川水門魚道の構造や期待される役割などについて理解を深めることができました。

（中村）

「パートナー情報誌　香澄」原稿募集

常時原稿を募集しておりますので是非ご応募ください。
特にテーマは設けません。パートナー自身のプロフィールやセンターでの活動体験記，また俳句・川柳・写真など何でも結構です。
原稿はセンター2階パートナー室の《香澄メールボックス》にお入れください。

編集後記

●昨年来，新しい取組みとして果実酒造りを始めました。既に香澄16号でその続編を紹介しましたが，今年は仕込んだ約20種類の蔵出しをと楽しみにしています。最初は焼酎と氷砂糖で造っていましたが，途中から白ワインとグラニュー糖に変えましたので，その味わいがどうか，今からワクワクしています。外から眺める限り，それぞれの果実の色に染まっており，なんとも不思議な感じがします。人間と同じように，各々が自分の色を出して，輝いているのですね。（O）